

# 2024年燧灘カタクチイワシ漁況予報

2024年7月9日  
香川県水産試験場

## 1. 水温

2024年1～6月の燧灘東部における水深10m水温は、平年と比較し、1～2月は「やや高め」、3月は「かなり高め」、4月は「やや高め」、5月は「平年並み」で推移している。

※平年値の算出期間：平成3年（1991）1月から令和2年（2020）12月（気象庁参考）

カタクチイワシは水温が約13℃以上になると産卵を始めることが知られており、今年は、5月から産卵が始まったものと考えられる。

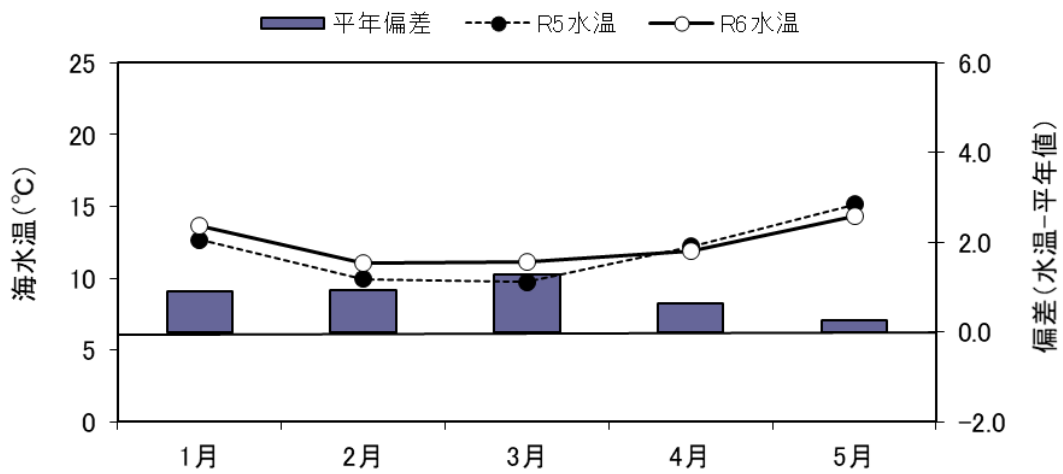


図.1 燧灘における水深10m水温の季節変化



図. 調査定点

## 2. カタクチイワシ卵および仔魚の出現状況

カタクチイワシ卵および仔魚の出現状況について調べるため、4月下旬から6月中旬の間に合計5回の卵稚仔調査（浅海定線調査を含む）を行った。卵・仔魚の採集はマル特Bネット（口径45cm，目幅0.33mm）の20m鉛直曳きで行った。

卵密度は，全調査日で前年を上回り，6月上旬を除く調査日で平年を上回った。

仔魚数は，全調査日で前年を上回ったものの、4月下旬及び5月中旬を除き平年を下回った（図.2，図.3）。

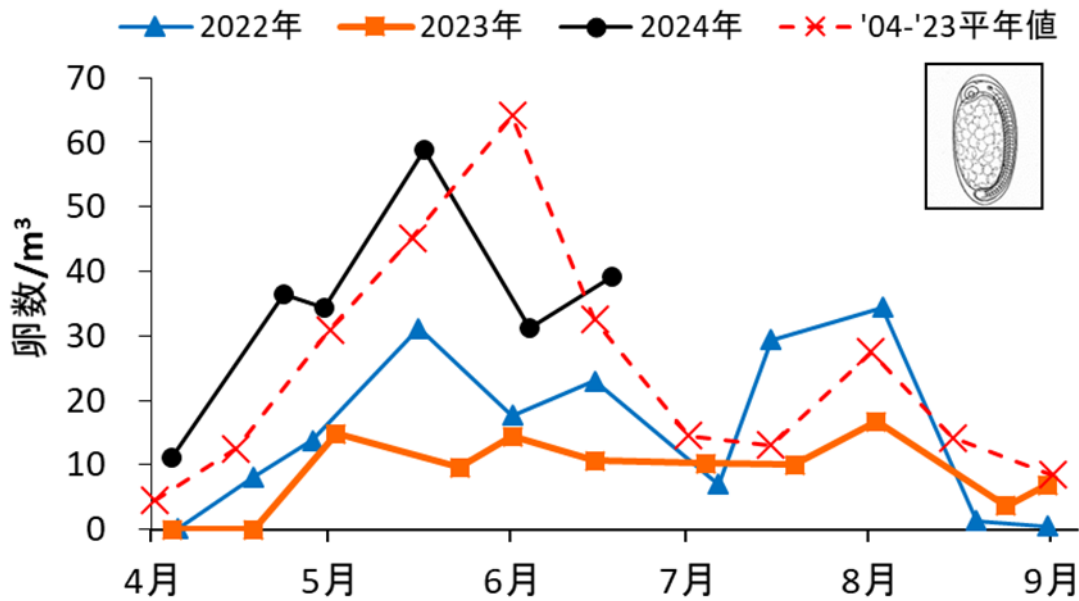


図.2 カタクチイワシ卵密度の推移

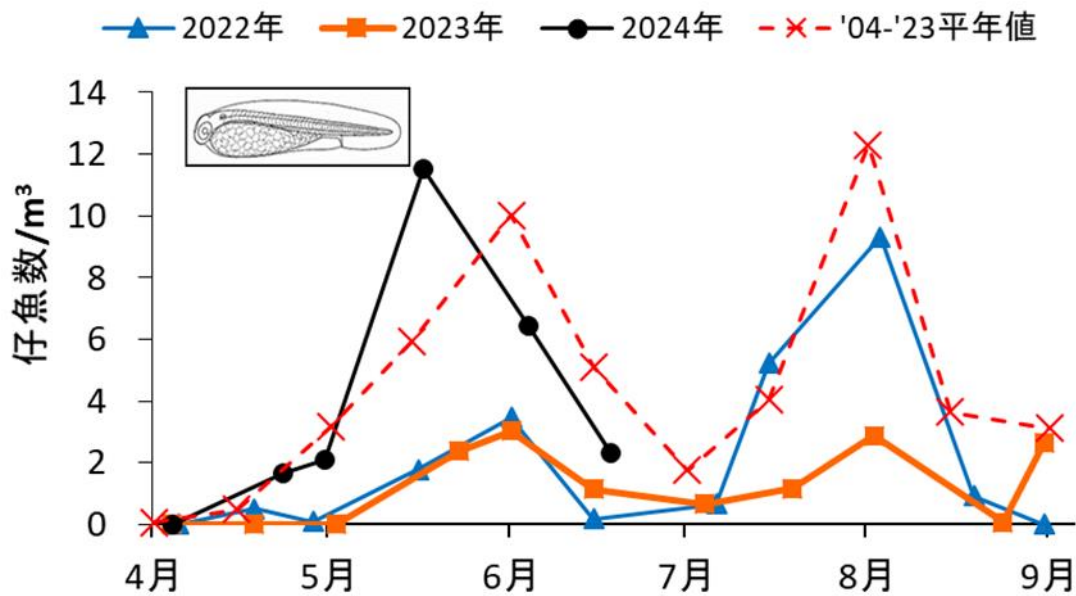


図.3 カタクチイワシ仔魚密度の推移

### 3. プランクトンの出現状況

カタクチイワシ成魚の主餌料であるカイアシ類成体密度については、全調査日で前年を下回った。また、5月中旬を除く調査日で平年を下回った（図.4）。

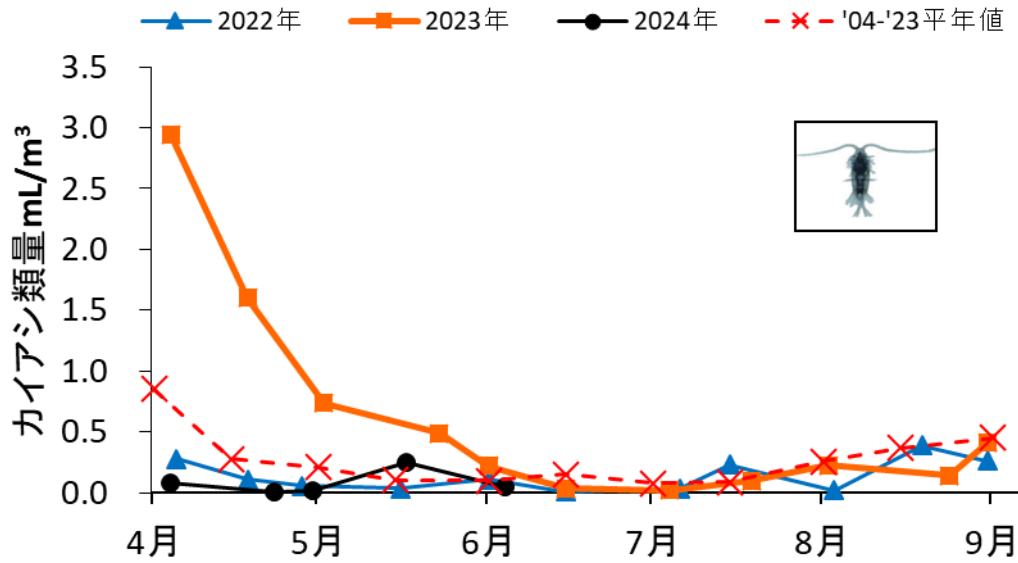


図.4 カイアシ類成体（335µm 以上）密度の推移

カタクチイワシ摂餌開始期仔魚の生残に影響を及ぼすと考えられる餌料であるカイアシ類ノープリウス幼生密度は、5月中旬を除き平年を上回った（図.5）。

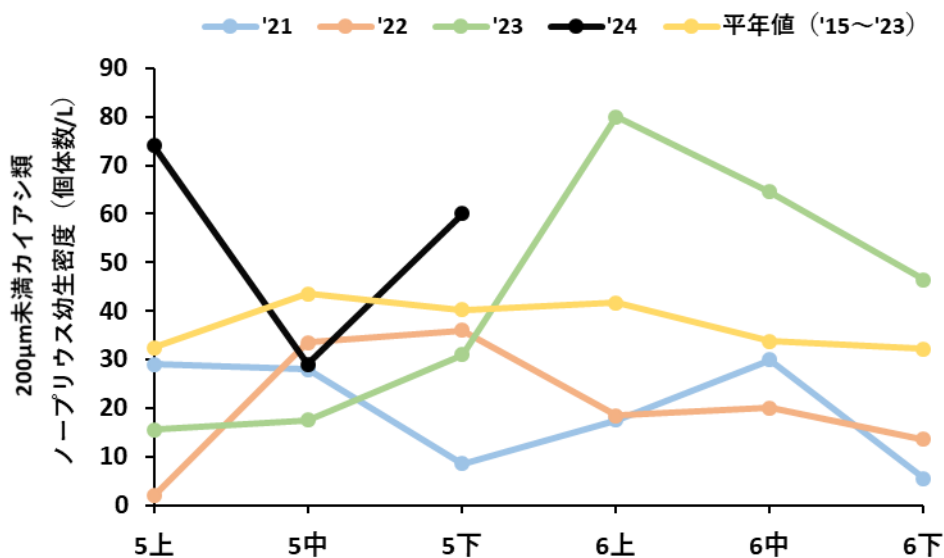


図.5 カイアシ類ノープリウス幼生（200µm 未満）密度

※H2 及び H7 の 2 点平均

#### 4. カタクチイワシの漁況予測

6月下旬から漁獲されるチリメンは、5～6月に燧灘で産卵された卵がふ化、成長したものである。この時期のカタクチイワシは1日0.6～1.0 mm程度で成長し、漁獲サイズの30 mmに成長するのは、ふ化してから約25～35日後と考えられる。したがって、早いものでは、5月下旬にふ化したものが6月下旬頃からチリメンとして加入し始めるものと推定される。

##### ○カタクチイワシ仔稚魚の加入量予測

ボンゴネット（口径60 cm，目幅0.33 mm）往復傾斜曳により、仔魚を採集し、2024年5月中旬～下旬における仔魚期の日間生残率（% day<sup>-1</sup>）を求めたところ49.8%で、平年の46.7%を上回った。

卵密度は、6月上旬を除く調査日で平年を上回った。しかしながら、仔魚密度は、4月下旬及び5月中旬を除き平年を下回った。

餌料環境について、カタクチイワシ成魚の主餌料であるカイアシ類成体密度は5月中旬を除き、平年を下回った。しかしながら、5月における仔稚魚の主餌料であるカイアシ類ノープリウス幼生密度は、中旬を除き、平年を上回った。

これらのことから総合的に判断すると、今年度のカタクチイワシ仔稚魚の加入量は、平年並みになると考えられる。

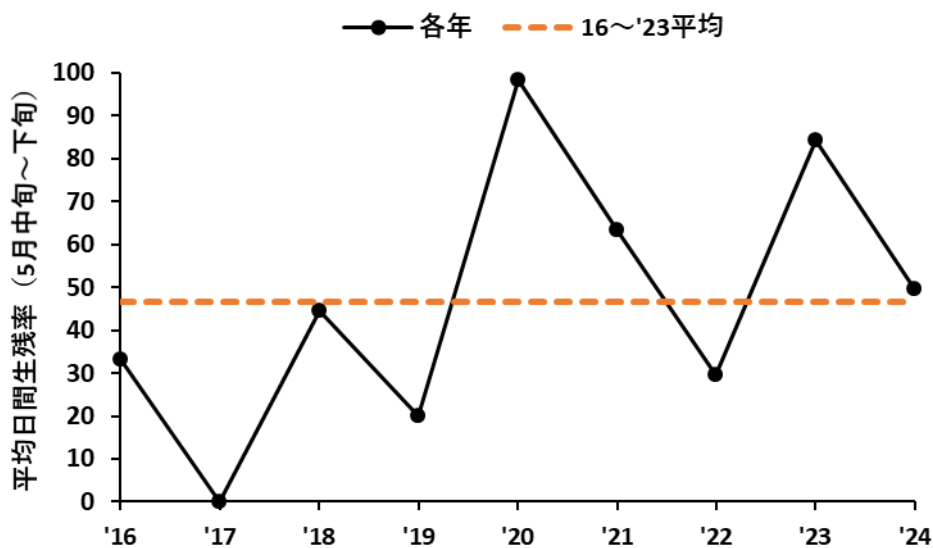


図.6 5月中旬～下旬における平均日間生残率の推移  
※H2, H4, H5, H7の4点平均